

お茶の水女子大学リベラルアーツとFD公開シンポジウム

平成21年2月12日(木)

文理融合リベラルアーツ科目を受講して ―受講学生の意見―

色・音・香9「おいしさと色・音・香」受講生

小林 志野(文教育学部 人文科学科1年)

小林 加奈(文教育学部 人文科学科2年)

(小林志)

私たちは「おいしさと色・音・香」について発表させていただきます。

私が取った「おいしさと色・音・香」の授業では、「おいしさの内容について」を村田先生が、「おいしさの変遷について」を古瀬先生と安成先生が講義を行われました。

この色・音・香の系列においては、「宗教と色・音・香」も前期で取りました。しかし、その講義を受けていたときにも感じたのが、色・音・香というテーマに縛られすぎているということでした。色・音・香というテーマに何とか結び付けようとしているのは分かりましたが、系列のせいで講義内容が狭まっているように感じました。私の周りの友人や、私自身もそうでしたが、系列でまとめて講義を取ろうとしている人はあまりいませんでした。それよりもコアを取ろうとすることに重点を置いていたように思います。

また、同系列5科目を取ることで、その系列を副専攻にできるということでしたが、その5科目で副専攻にできるということにも少し疑問を感じました。現時点で、私は生活世界の安全保障の系列では3科目を既に取りましたが、あと2科目取るだけで自分の副専攻とも言えるほどの知識が得られるかという点、答えはノーでしょう。また、私が取った3科目は、講義としてはそれぞれとても面白かったのですが、その3科目の中につながりがあり見られませんでした。そのため、こうした系列で5科目を取れば副専攻にすぐ認めるのではなく、その系列を5科目以上取った人たちを系列ごとに集めて、自分の取った五つの講義に見られるつながりや違いなどを議論したりする場があると、自分のその系列の専門性を高めるという点においても有意義なものになるのではないかと感じました。

確かに文理の区別なく受けられる授業というものは、今まで文系の視点しか知らなかった自分にとっては、とても新鮮なものがあり、面白く感じました。しかし、たまに文系の私には分からない計算や事柄、知識を前提に話されることがあり、そうしたときには文理融合の難しさも感じました。

私が後期に受講した「おいしさと色・音・香」は、そうした文理の違いをあまり感じることなく受けることができ、最近注目されている食品の安全についても知識を深めることができたのではないかと思います。また、古瀬先生と安成先生の「おいしさの変遷」も、普段の歴史や授業ではあまり注目されることのない食というテーマがとても新鮮で面白く感じました。

(小林加)

「おいしさと色・音・香」は、おいしさについて、色や音、香といった要素を交えながら、文系・理系の両方の視点から考えることを目指した授業です。授業では、村田先生が科学的な視点から、古瀬先生と安成先生が歴史的な視点から講義をしてくださいました。

現在、本大学では、文理の枠を超えた知識を学ぶために、文理融合リベラルアーツ科目が設置されています。「おいしさと色・音・香」もその一つです。リベラルアーツ科目には、文理にまたがるテーマが設けられており、この授業は「色・音・香」というテーマに沿って進められていきます。ほかに「生命と環境」「生活世界の安全保障」というテーマもあります。

しかしながら、実際にリベラルアーツ科目を受講してみたと思うのは、一つのテーマに沿って授業を行うのは難しいこともあるということです。この授業に関して言うならば、色や音、香に絡めて、おいしさについて述べられたかという点、少し疑問に思えるときもありました。また、リベラルアーツ科目は、一つのテーマの中で5科目以上履修すると副専攻と認定されますが、現在自分が3科目取っている時点で考えてみますと、5科目以上で副専攻と言っているのか、疑問です。同じテーマの中で複数の授業を受けてみても、つながりを感じられないことも多いからです。

もちろん文理融合リベラルアーツ科目には、いい点もたくさんあります。特にこの授業では文系の先生と理系の先生の両方が担当してくださったので、一つの授業を受けることで文系・理系双方の視点から、おいしさについて考えることができたのがとてもよかったです。

私は人文科学科なので、実験とは縁が薄いのですが、村田先生の講義のときに味の素の方がいらして、簡単な実験をさせていただいて、とても印象的でした。また、授業最終日に行われるシンポジウムでは、普段は聞くことのできない理学部や生活科学部の学生の意見を聞

くことができ、とても新鮮に感じました。

文理融合リベラルアーツには、先に述べたような欠点も確かにありますが、得るものも多いです。リベラルアーツ科目を受けることで視野が広がり、何か一つの問題に向き合うときにさまざまな角度から考えることができるようになるからです。これはいろいろな問題が複雑化する現代においては非常に重要なことだと思います。なので、文理融合リベラルアーツは、現代社会に非常に適したものだと思うので、これからも発展させていってほしいなと思いました。



お茶の水女子大学
Ochanomizu University